



未来は自らの手で切り拓く

東京都知事 石原 慎太郎

今年の正月、この国の行く末に、かつてない危機感を持って、知事としての十年目の新年を迎えました。

世界各地で頻発する気象の異変が警告するように、地球環境の循環は大きく狂い、もはや取り返しのできない事態が一刻と迫りつつあります。さらには、未曾有の経済危機が各国を襲い、その震源地・米国は唯一の超大国としての地位を低下させており、世界は多極化の度を増しております。

このように、人類は、自ら創り出した文明社会の発展ゆえに生じた数々の難題によって、その存在や尊厳を致命的に脅かされており、混乱を脱するためには新しい秩序を創造していかなければなりません。しかし、秩序の創造にあたり日本がどのような役割を果たすかを問われながら、国政は、危機感に乏しいまま別次元での内向きな議論に終始しており、日本がこれからどこに進むかさえも定かではありません。国民は自らの将来を見通すことができずに強い不安と危機感を感じて、いらだちを募らせているのであります。

一方、都政はこの十年間、文明社会が直面する難題が最も先鋭的に現れた東京という「現場」を踏まえ、明確な目標を掲げ、新しい発想による政策を確固たる決意で進めてまいりました。

環境分野を例に挙げるならば、動きの遅い国に代わって首都圏八都府市で協力して実現したディーゼル車排出ガス規制により、文明発展の悪しき副産物とも言うべき大気汚染を急速にかつ大幅に改善することができました。また、多量消費社会が排出したゴミから成る埋立地を、美しい森へと生まれ変わらせる画期的な取り組みも行っております。さらに、昨年には、子や孫への責任を果たさんとする志を胸に、CO₂排出総量の削減義務化と排出量取引制度の導入を決め、大都市における地球温暖化対策の端緒を切り拓きました。

この十年間、東京は、大きな流れを見極めながら日本の再生の起点となり、新しい秩序の創造にもつながる取組みを進めてまいりました。今、この国に必要なのは、こうした巨きな視点に立って自らの未来を自らの手で切り拓き、国民に希望を取り戻すことでもあります。

しかし、今の国政には、それを望むべくもありません。ゆえにも、日本のダイナモたる東京から、この国の羅針盤となる取組みを積み重ねて、国政を動かしていきたいと思えます。

未来を自らの手で切り拓くためには、都民・国民の生活に甚大な影響を及ぼしている現下の経済危機を一刻も早く突破しなければなりません。そして、危機の先に、日本のさらなる発展の軌道を見出

し、今後の文明社会が進むべき道筋を示す二十一世紀の都市モデルを造り上げていかなければなりません。

眼前の危機に果敢に対処しつつ、未来を見据えた取組みも重層的・複合的に行って、都民・国民に希望を指し示してまいりたいと思えます。

いよいよ、本年十月にコペンハーゲンで開かれるI O C総会で、二〇一六年オリンピック・パラリンピックの開催都市が決定いたします。開催都市の決定まで、渾身の力を振るってゴールを目指し、夢と感動をもたらすオリンピック・パラリンピック開催を日本に持ち帰りたいと思っております。

オリンピックは、人間が作り出す劇の中で最も美しい劇であります。その感動がもたらすものは、比類なきものであり、国家や民族の垣根を超えて、努力を通じて、自己変革、公正さ、他者を尊重すること、夢を追求することの素晴らしさを広く浸透させて、人々を結ぶのであります。

日本は、戦後六十年以上にわたり、一貫して平和を堅持し、数多くの分野で人類の成長と繁栄を支えてまいりました。その日本で再び東京大会を開催することにより、民族・国家間の協調を培い、世界を一つに結んでいきたいと思えます。